

カナからカファルナウムへ新しいぶどう酒で一杯の水瓶を携えて

「イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された、それで、弟子たちはイエスを信じた。

この後、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナウムに下って行き、そこに幾日か滞在された。

(ヨハネ 2,11-12)

愛する姉妹の皆様

わたしたちは、最初の評議会で、お互いに知り合い、すばらしい交わりのうちに共にした体験を、喜びをもって皆さま方と分かち合いたいと思います。わたしたちは評議会の新しい共同体として、来年1月24日から3月末頃まで全員で取り組む「2022-2027年の6年間の計画」に鑑み、総会議員に委ねられた課題を振り返ってみました。皆さま方お一人ひとりと、世界中の教育共同体の多様性のことを考えながら、わたしたちは、この企画が、第24回総会での選択を実現するための豊かな手段となり、交わりとシノダリタを育み、わたしたちの会を当初から際立たせてきた大胆さと宣教的創造性を活気づける機会となることを願っています。

先日閉会した第24回総会では、カナの「しるし」の聖書のアイコンが華やかな雰囲気醸し出していました。信仰の目でそれを見ることが出来る人にとっては、本当の奇跡とも言える体験をしたことに、感謝、喜び、希望がわたしたちの心からほとばしり出るようでした。総会に直接参加するためにより良い時を忍耐強く待つことで、より深い分かち合いと全員が参加する考察のため、これまでになく新たな道を開く心のこもった祈りの中で、わたしたちをより強く一致させてくれました。これにより、世界のすべての管区の姉妹方が、パンデミックの悲劇（ドラマ）がまだ収束していない時期にもかかわらず、ローマに集うことができました。

しかも、その奇跡は物理的な参加を超えたものでした。それは、総会議員だけでなく、準備段階での省察による貢献、この素晴らしい家族のイベントを共にすることへの関心、そして祈りによって、すべての教育共同体を巻き込むものでした。

カナの時のように、わたしたちはマリアの現存を手で触れることができました。ドン・ボスコの「マリア様はここにいて、この家の中を歩いていらっしやる」という言葉が総会議場に響きわたりました。わたしたちは、マリアのように、マリアとともに、それぞれの会議や決定において、イエスがわたしたちに何を語っていたのかを理解し、現代世界の訴えに応え、とりわけ教育使命において、またそこから社会や教会の中でいのちを生み出すために、耳を傾ける姿勢をとってきました。

わたしたちの間にイエスとマリアが生きておられることを体験し、青少年の間にわたしたちが現存することの重要性について考えました。ですから、マインの心で、父なる神のわたしたちへの信頼の行為として、あなたにこの少女たちを委ねますという委託を、心を込めて受け入れましょう。マリアをわた

私たちの召命の靈感の与え手、師、母として認め、わたしたちのマリア的なアイデンティティへの認識を新たにしましょう（会憲4条参照）。

わたしたちは、教会の母、マリアと共に、旅する神の民であると感じています。総会は、シノドスの第16回総会の第一段階である「シノドス的な教会のために」と合致しています。交わり、参加、使命は、神のみ旨を一緒に求めていきたいという望みを、わたしたちの中で強めてくれます。第24回総会では、本会の異文化性の豊かさの特徴とする交わりの仕事場である、シノダリティの体験をしました。それは、5大陸、97カ国から172名の総会議員が参加しています。今、わたしたちは、生活や司牧活動、活性化や統治のスタイルとしての宣教的シノダリティを生きながら、現代世界のただ中で共に歩むという呼びかけをより強く感じています。

教会や被造物との交わりの中で、総会は、若者や貧しい人々、地球の叫びにどのように耳を傾けるかを問いかけてきました。これが、総会が地理的、実存的ニュー・フロンティアに向けて、総合的なエコロジーへの回心というより組織的な歩みに本会を関与させることを決定した理由です。教皇フランシスコのイニシアチブに答えて、わたしたちは「*Laudato si'* イニシアチブプラットフォーム」に登録し、シンプルで具体的なプロジェクトに積極的に参加するよう招かれています。本会は、すでにマードレの名義で、教皇庁の「人間開発のための部署」に登録されています。次はわたしたち管区、共同体、教育機関、グループ、諸集会の出番です。

総会は、本会全体を代表し、マードレ・イヴォンヌ・ランゴアに長い年月の爽やかな活性化と統治を感謝しました。わたしたちは、そのいのちの贈り物、母の心と無条件の献身、青少年たちとの預言的な使命に向けて励ましてくれる広くて深いまなざしに、感謝の心を新たにします。総評議会での奉仕を終えた姉妹たち、suor María Nieves Reboso、suor Alaíde Deretti、suor María Luisa Miranda、suor Maria Helena Moreira、suor Vilma Tallone、suor Silvia Boullosa、suor Lucy Rose Ozhukayi、suor Marija Peče、そして、総秘書の suor Piera Cavaglia に感謝の意を表します。わたしたちは、この姉妹たちを待ち受けている新たな使命において、イエスだけが与えてくれるおいしいぶどう酒の喜びを味わうことができるよう、感謝を込めて願ひましょう。

サプライズでわたしたちに会いに来てくださった教皇フランシスコに、心からの愛情を込めて感謝します。今回の訪問は、わたしたちの修道会にとって貴重な贈り物であり、ユニークで忘れられない歴史的なイベントであると認識しています。それは、新たな課題に対応し、新しい未来を準備するために、大胆さと情熱をもって今日の教育のカリスマを生きる責任をわたしたちに託すものです。それは、新たな課題への対応として、そして新しい未来に備えるために、大胆さと情熱を持って今日の教育カリスマを生きる責任がわたしたちにかかっています。教皇さまの言葉はわたしたちの心に刻まれたままです。「*起源の恵み、神の働きを人生の中で透明にした初期の謙虚さと小ささ、そして驚嘆に溢れてこの歩みを始めた人々のメッセージを忘れないでください。扶助者聖マリアはあなた方を助けます。あなた方はその娘です。*」

総会の開催で、今日への応えとして、宣教の炎と、本来の使徒的・召命的実りの新鮮さを再び目覚めさせたいという望みが蘇ってきています。「今こそ、イエスとマリアと共にカナからカファルナウムに下り、青少年や信徒とともにいのちと使命を分かち合い、わたしたちの実存に神の息吹を吹き込み、直面することになる困難に勇気をもって立ち向かう時です」。(第24回総会閉のマードレの挨拶)。

わたしたちは、貧しい青少年たちの側近くで彼らの叫びに耳を傾けながら、彼らの「間にいたい」のです。彼らと共に、彼らのために、わたしたちの文化の多様性のカラーでカリスマを豊かにする創造的な忠実さの喜びと希望を分かち合いたいと思います。

無原罪の聖マリアの祝日に備えるノベナでは、ドン・ボスコとバルトロメオ・ガレリがオラトリオの始まりに捧げたアヴェ・マリアの祈りとともに、マリアへのわたしたちの感謝と信頼を新たにしましょう。

わたしたちも聖母マリアに伴われて、聖なるクリスマスの祭日を、恵みの時とより素晴らしい未来への新たな希望の時として生きる準備をいたしましょう。このご挨拶を、皆さまと皆さまの家族、特に今苦しんでいる方々にお贈りしたいと思います。ドン・アンヘル・フェルナンデス・アルティメ総長さま

とサレジオ会の兄弟の皆さま、サレジオン・ファミリーの皆さま、そして、世界中で教育の奉仕を私たちと分かち合い、カナで起こった奇跡は今日でも実現できると信じている青少年と大人の皆さまに特別なご挨拶を申し上げます。

150年にわたって本会を導いて下さった聖マリアは、わたしたちの総会後の歩みと生活、そして聖マリアがわたしたちに託された使命のうちにこれからも現存し続けてくださいますように。

ローマ 2021年11月24日

マードレ・キアラ・カツオラ
総評議会の姉妹一同

新管区長 2021- 2022

Africa

Ispettorica “Nostra Signora della Pace”
Suor Cecilia Libokanyo Motanya AFM

Visitatoria “Regina della Pace”
Suor Natália Miguel ANG

Ispettorica “San Giovanni Bosco”
Suor Carolina Ilda Hermínio MOZ

America

Ispettorica “Santa Maria Mazzarello”
Suor Sara Cecilia Sierra CMM